

科目名	デザイン史								年度	2024	
英語科目名	Design history								学期	前期	
学科・学年	デザイン科	グラフィックデザイン専攻	1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	角田 知義				教員の実務経験		有	実務経験の職種		エイティブディレク	
【科目の目的】											
デザイナーとしてのアイデンティティーを培う基礎として、「デザインの概念」「デザインと表現技法」「デザイン行為・物と社会」という三つ視点を持ち「デザイン史」を通して、理解出来るようになる事を目指します。これらの視点と知識を持つことの重要性の理解と共に、具体的にはデザインを行う上で必須となる「デザイン言語」、「観察・分析・整理力」、「発想方法」、「表現技術、設計力」、「思想、社会」についての幅広い知識を習得できる基礎力の向上と獲得を目的とする。											
【科目の概要】											
本講義は、デザインの勉強を始める学生を対象とし、「デザインの歴史の変遷」、「基本的なデザイン用語の理解」、更に「隣接学問領域との差異からデザイン領域特性の理解」を目指します。社会の変化、技術の変化に伴う「デザインの社会的な役割、表現技法の変化を考察」をすることで、21世紀の現代において、新しいデザインを創造してゆく上で必要となる基礎的な知識、思考方法を歴史を通じて身につける事を目的とする。											
【到達目標】											
目標A：デザインの歴史の変遷を理解する 目標B：基本的なデザイン用語を理解する 目標C：デザインの社会的な役割、表現技法の変化を考察する											
【授業の注意点】											
情報収集・整理というでも観点でも授業に集中してノートをとることが必要。各自の理解度の確認、講義内容に対しての質疑応答のため、毎時間「授業の振り返り」を書き、必ず授業時間終了時に提出する。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価を受けることができない。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価	レベル5 優れている				レベル3 ふつう				レベル1 要努力		
到達目標 A	デザインの歴史の変遷を深く理解している				デザインの歴史の変遷を認識できる				デザインの歴史の変遷がわからない		
到達目標 B	デザイン用語をしっかりと理解している				デザイン用語を認識できる				デザイン用語を認識できない		
到達目標 C	デザインの社会的な役割、表現技法の変化を考察することができる				デザインの社会的な役割、表現技法の変化を理解している				デザインの社会的な役割、表現技法の変化がわからない		
【教科書】											
特定の教科書はない。適時、授業に必要な資料配布を行う。											
【参考資料】											
特になし											
【成績の評価方法・評価基準】											
授業期間中のレポート、最終課題レポートの提出。毎時間の受講振り返りをまとめた振り返りシートの提出。受講態度、出席状況など総合的に評価する。 最終課題レポート：55%、レポート：25%、授業振り返り：10%、 受講態度：10%											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

